

第1章 精華町の現況分析

1. 精華町の概要

(1) 地勢

- 精華町（以下、「本町」といいます。）は、京都府の南西端に位置し、東は一部木津川を挟んで木津川市と、西は生駒市、南は奈良市、北は京田辺市と接しています。
- 東西約 6km、南北約 7km で、町域面積は 25.68 km²を有しております、西部と南部はなだらかな丘陵、東部には平坦な農地が広がり、東端には木津川が流れています。
- 丘陵部はかつて山林が多くを占めていましたが、関西文化学術研究都市※（以下、「学研都市」といいます。）の建設などによって、現在は住宅や商業施設、研究施設等が多く立地する都市的な環境が形成されています。
- 平野部は、市街地と集落及び農地からなっており、農地は、地味肥沃で気候にも恵まれているため、米、京野菜、イチゴのハウス栽培や花き栽培などの都市近郊農業が発達しています。

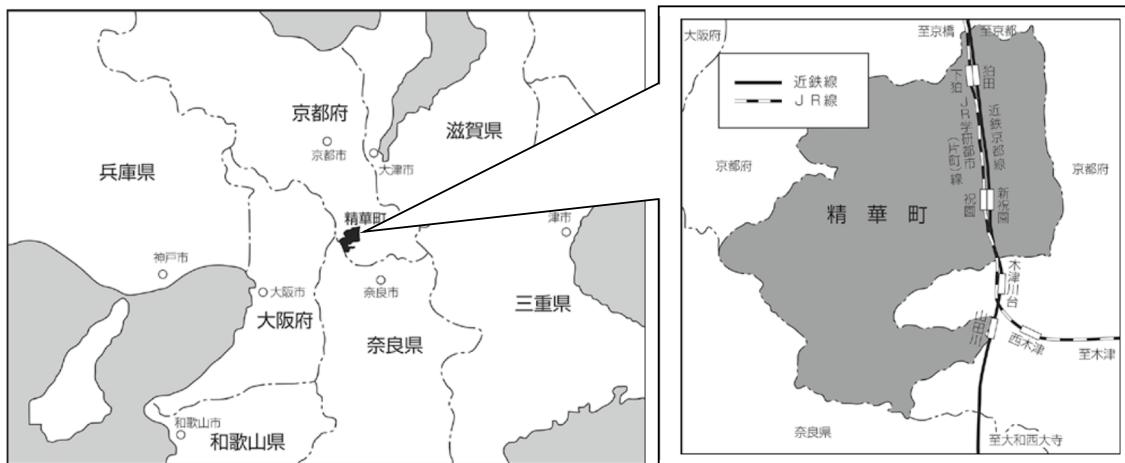


図 位置

出典：令和6年度版精華町勢要覧資料編～統計で見る「せいか」～

※関西文化学術研究都市

近畿圏において培われてきた豊かな文化・学術・研究の蓄積を活かしながら、創造的かつ、国際的、学際的、業際的な文化・学術・研究の新たな展開の拠点づくりを目指すことを目的とした広域都市。3府県（京都府、大阪府、奈良県）8市町（精華町、京田辺市、木津川市、枚方市、交野市、四条畷市、生駒市、奈良市）にまたがる京阪奈丘陵（枚方丘陵、生駒山、八幡丘陵、田辺丘陵、大野山、平城山丘陵）に建設されている。

(2) 沿革

- 本町は、飛鳥、平城京、平安京を結ぶ日本文化発祥地域の歴史軸上に位置しており、弥生時代から奈良時代にかけての遺構が検出された畠ノ前遺跡、山城国一揆の稻屋妻城などの遺跡、「祝園」などの歴史ある地名、春日神社本殿、新殿神社十三重の石の塔をはじめとする文化財が今日まで町内の随所に残っています。
- 町としての歴史は、昭和 26 年（1951 年）に川西村と山田庄村が合併して精華村が誕生し、昭和 30 年（1955 年）に町制を施行しました。当時は、農村的な地域社会が形成されていましたが、昭和 40 年（1965 年）代以降の住宅立地の進展、昭和 60 年（1985 年）に始まった学研都市の建設などを経て、都市化が進んでいます。
- 40 年前の学研都市の建設開始以降、桜が丘、光台、精華台地区が順次開発されるとともに、祝園駅西地区や狛田駅東地区における特定土地区画整理事業による整備など、着実に都市基盤整備と学研都市への施設立地が進んでいます。
- 学研都市建設は、「文化学術研究地区※」（クラスター、通称「学研地区」）開発のうち概ね 3 分の 2 が完成し、残り 3 分の 1 となる学研狛田地区（「南田辺・狛田地区」のうちの精華町域）の開発が進みつつあります。

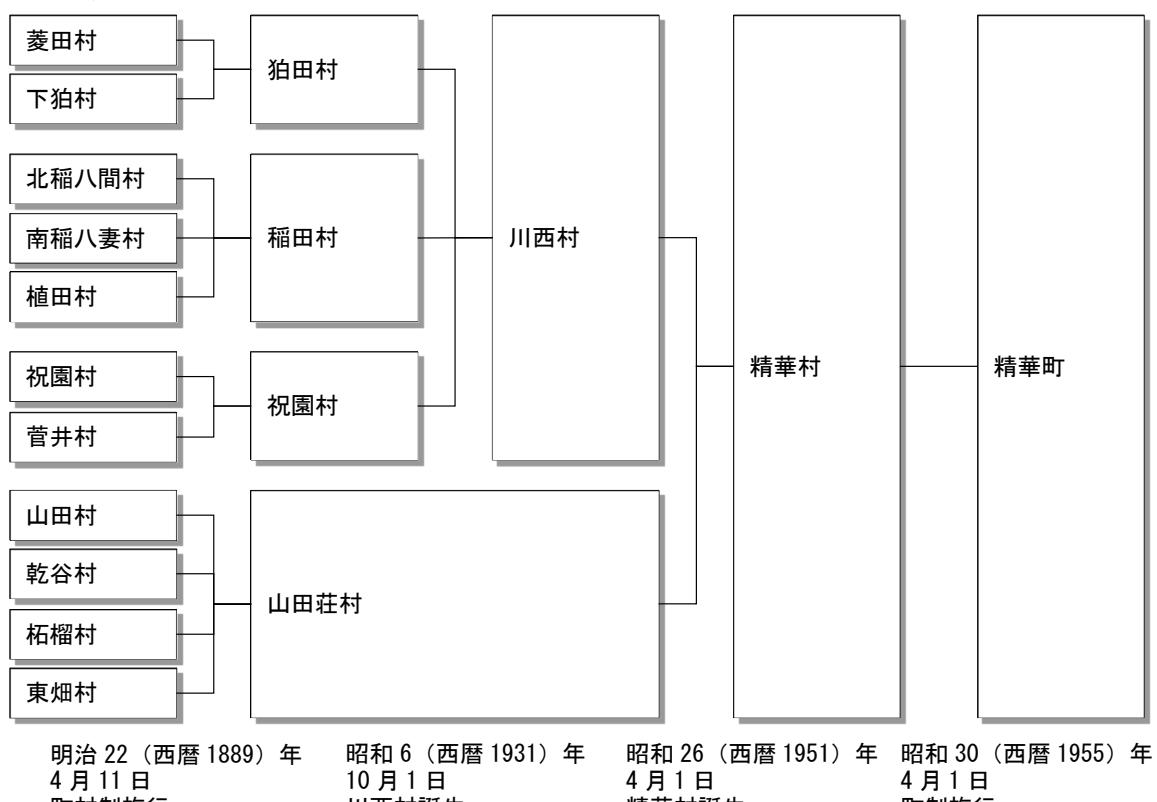


図 町の沿革

※文化学術研究地区

学研都市の区域のうち、文化学術研究施設、研究開発型産業施設または文化学術研究交流施設、公共施設、公益的施設、住宅施設、その他の施設を一体的に整備する地区。